
悔しいけど、君が好き。

里華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悔しいけど、君が好き。

【コード】

N6810V

【作者名】

里華

【あらすじ】

悔しいけど、好きになっちゃったよ。

「もーっ！...!」

初めまして（＾＾）

里華と言います。

この小説は恋愛小説です。
そして

『現在進行形の私のノンフィクションの話』です。
簡単にいいますと私の今の恋の話を書きますよってことです！
(名前はもちろん偽名です)

注意

- ・小説内に時々顔文字使います。
- ・小説初心者なので文章力はあまりないです。
ご了承ください>(一一)<

ぐだぐだになるかもしれないが
ぜひ読んでくれると嬉しいです。

では、本編始めます！

クラス替え

「」
「」

私、栗原里華は上機嫌でいつもの登校道を歩いていた。

「里華ー！」

「あ、みーちゃん！おはよー」

みーちゃんこと、美優ちゃんは昔からの親友である。

「今日だねークラス替え…」

そう、今日は4月7日。

始業式なのである！

つまりクラス替え。

「だねー、去年と同じく

今年も一緒のクラスだといいのになっ」

「あはは、だといけどねー（笑

10クラスもあるから難しいかもだけど」

「多すぎだよこの学校っ！（笑」

学校前の桜並木を通ると

桜は満開に咲き誇り、

周りのみんなも笑顔で満ち溢れている。

「あ、正門でクラス替えの紙配ってるみたいだよー！

里華、行こう」

「うん！」

いいクラスだといいなあ。

そんなことを思いながら私は学校に入ってしまった。

「はい、里華これー！」

私は水色の紙をもらった。

「えーつと…私何組だ!？」

「ぬー…あ、私5組だ!里華は？」

「えー!ちよつと待つて…」

あれれ、どこだどこだどこだ。

「あー！」

【3年3組11番 栗原 里華】

「3組だあー…離れちゃったね」

「あー…まあ近いしまった遊びに行くよ！」

「うん！」

《3年生はクラス替えの紙を確認したら

体育館前の入口に集合しなさい!。

繰り返します…》

「あ、体育館いこっか」

「だねー。式だるい(笑)」

それにしても3組かあー…

誰がいるんだろ?

私はざつと名簿に目を通してみた。

…(、。、)…

あれ、知り合い全然いなくない?

やばいぞーやばい…

中学校生活最後のクラスだし…

「ぬ、里華？どうしたそんな珍しく真面目な顔して」

「失礼な（笑 いやークラスにあんま知り合いいないから

どうしようかと」

「えー？ あ、優香ちゃんいるじゃん。

仲よくしてくれるんじゃない？」

優香ちゃんとは、みーちゃんの友達で

数回話したことがある。

つまり、友達の友達だ。

「かなあー。仲よくしたいわあww」

「あ、あと内田いるじゃん！」

「内田？」

誰それ（＾ ＾）

「前にもいったことなかったっけ？

うちの部の唯一の男子部員w」

「…ああーそっぴいってたね」

前にみーちゃんがそんなこといってた気が…

「反応薄っ（（笑」

「男子は興味ない（（笑」

そう、なぜなら私は

大の男嫌いであるから（、＾ ＾、）

「あははw まあとりあえず並ぼうー
またねー！」

「あ、うん！」

私はとりあえず3組の列を探した。

「里華ちゃん？」

ん？

「…あ、優香ちゃん！」

そっか、同じクラスなんだよね。

「3組だよねー？よろしく！」

ゆっ、優香ちゃん優しい！

「よ、よろしくね！」

「優香ー？…ん、友達？」

2人の女の子が私たちに近づいてきた。

「明菜、千春ちゃん！」

「この子も3組なんだってー！」

「へー。私明菜、よろしくねっ」

みんな、優しすぎる。

「う、うん！私里奈！よろしくね！」

『では、今から新しい教室に移動します！キン
学年主任の先生がマイクで指示を出した。

あの先生うるさいから別にマイク要らないと思うけどな…
キンキンしてるし（笑

私達は整列して、そろそろと教室に移動し始めた。
教室前についたとき

「内田もいるじゃん！」

みーちゃんの言葉をふと思い出した。

そっぴや内田ってどんな人だろ？

見たことないな。

「ま、いいや」

私はぼそつと呟いて教室へ入っていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6810v/>

悔しいけど、君が好き。

2011年10月9日13時46分発行